

33○村翁…村の年寄り、いなかのおやじ、村叟。

杜甫の「詠懷古跡詩」に「古廟杉松巢水鶴、歲時伏臘走村翁」の句が見える。

○往事…過ぎ去ったこと。昔のこと。既往のことから、過去。

白居易の「有感詩」に「往事勿追思、追思多悲愴」の句が見える。

『漢語大詞典』には、「過去の事情」との説明を載せ、『荀子』成相の「觀往事以自戒、治乱是非亦可識」の一文が、また、劉長卿の「南楚懷古詩」に「往事那堪問、此心徒自勞」の句を引く。

34○客館…賓客を招待するところ。客（旅人）をおく家。また宿屋。ここでは道真の官舎に移るまでの仮の宿舎を指す。

『漢語大詞典』には、「招待賓客的處所、亦指旅店」と説明する。『春秋左氏傳』僖公三十三年に「鄭穆公使視客館、則束載、厲兵、秣馬矣。」の句が見える。また、『菅家文章』²³⁴得倉主簿寫情書、報以長句、兼謝州民不歸之疑」に「当州若不重来見、客館何因種小松」の句が、「269 寄白菊、四十韻」に「含情排客館、抱影立荒村」の句が見える。

○留連…滞在する。停滞する。ぐずぐずして去るに忍びないさま。

『漢語大詞典』には、「①猶滞留、滯積」、「②猶流離、流浪」、「③留戀不舍」と説明する。ここは道真が、旅の地（＝太宰府）に引き留められていることを指すと思われる。『菅家文章』「194 始見二毛」に「我老於潘一十年、二毛何處甚留連」の句が見え、①「とどまる」の意で使っている。